

令和7年度 東京都立日野台高等学校 学校経営報告

令和7年度の取組と自己評価

管理職が2名とも交代し、前年度の継承と修正の1年であった。本校が求められるミッションである進学指導を中心としつつも、「GE-NET EE校」、「海外学校間交流校」、「東京IBLハイスクール」、「DXハイスクール」といった英語教育、探究活動、ICTを活用した教育にしっかりと取り組むことができた。結果として、生徒の希望進路実現に向けた質の高い授業・教育活動を推進し、生徒に「挑む心（挑戦心）」を醸成し、「考えて主体的に実行する」態度を育成することができた。

	目指す学校像 (スクール・ミッション) 【期待される社会的役割等】	「叡知・情操・健康」を教育目標とし、文武両道を通じて、生徒自らが計画を立て、自らを律して最後まで粘り強く頑張り通す、挑戦心と実行力を育成します。
スクール・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー 【高等学校学習指導要領で育成を目指す資質・能力】	教育活動において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す工夫した教育の充実に努める。
	カリキュラム・ポリシー 【教育課程の編成及び実施】	知力・徳力・体力のバランスの取れた教育の充実に努める。具体的には次の5つの資質・能力「①基礎・基本の定着 ②自律的な学び ③探究する態度 ④文武両道 ⑤規範意識」を育成し「挑戦する心」と「実行する態度を持つ生徒」に育てる。 これによって、より高い進路目標の実現に向け、学習と学校行事・部活動を、高い次元で両立できる文武両道を目指す。学習においては、自分の目標とする難関大学等を目指す。
	アドミッション・ポリシー 【本校の期待する生徒の姿】	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組み、教科の成績が優れている生徒 ・難関大学進学等の目的意識をもち、入学後もその実現に向け継続的に努力できる生徒 ・部活動、生徒会活動、奉仕活動のいずれかに熱心に参加し、入学後も継続的な活動ができる生徒 ・社会生活を円滑に送るためのマナーを身に付けており、中学校3年間の出席状況が良好な生徒

(1)教育活動の目標と方策

①学習指導

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・大学入学共通テスト、国公立大二次試験、難関私立大入試の得点力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や進路指導部で、共通テストや国公立大二次、難関私立大の入試問題を研究・分析して教員間で共有した。 ・授業では思考力・判断力・表現力を問う発問を、定期考査では論理的思考力・表現力を高めるための、記述・論述問題を出題した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内での共通テスト、国公立大二次、難関私立大入試問題の分析を組織的に行う。 ・教科主任会で、情報の共有化を図る。
・教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会で、科目内の授業進度を調整や教材の共有化を図り、定期考査の共通化を進めた。 ・変化に対応し、学校として一貫性のある授業計画を立てて実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとではない、学校として一貫性のある授業を継続する。
・学力向上と定着	<ul style="list-style-type: none"> ・予習を前提とした授業を行えた教員もいる。 ・教科、学年、部活動顧問が連携し、学習時間等の確保に努めた。 ・自習室、図書室、学習コーナー等で、自主的に学習する習慣を身に付けさせた。 ・自宅学習定着のため、予習・復習、週末課題を課した。 ・夏期・冬期・春期講習、普段の補習を実施した。 ・共通テスト、国公立大二次、難関私立大の出題傾向を踏まえ、新たな学習教材、学習方法を研究・活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題について、生徒への負荷過大にならないよう教科間での調整をする。 ・講習・補習について、教科会でその効果を検証していく。 ・進学指導推進校として、一人1台端末を活用した質の高い授業を

	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業の推進に向け、一人1台端末（iPad）の活用を促進を図り、ロイロノート等を活用した授業の工夫・効率化を進めた。 	<p>展開できるように、相互授業参観や研修などを実施する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を推進 考える授業を展開 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での深い問いかけ、考えさせる発問、話し合い活動等で、主体的・対話的な授業に取り組んだ。 教員相互の授業参観、研究授業、授業公開を行い、教科横断型の授業を試行した。また、進学指導推進校としての授業を公開した。 1時間ごとの授業のねらいを明確にし、生徒にとって見通しのある授業、考えさせる授業に取り組んだ。 総合的な探究の時間では、人間と社会の趣旨を共有して取り組んだ。総合的な探究の時間では、SDGs等を基本コンセプトに、日野市や青年会議所等とも連携し、生徒が成果をクラスそして校内で発表した。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での深い問いかけ、話し合い活動等で、主体的・対話的な授業に取り組む。 普段からの相互の授業参観、指名制による授業研究を活用し、他校（進学指導重点校等）の授業への参加にも積極的に取り組む。 総合的な探究の時間等の趣旨を共有し、将来の在り方、生き方につながる取組を行う。
<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術を活用した教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教育のICT化・DX化を推進している。 ICTを活用することで、生徒一人ひとりの理解度や進度に応じた個別最適な学び、生徒同士の主体的・対話的な学びを少しずつ授業に取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT委員会を活用しながら、先進校の事例を教員で共有し、効果的な学びについて考察する。
<ul style="list-style-type: none"> 授業時数確保 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼすべての授業でチャイム始業を徹底した。 土曜授業は年20回行い、学習、部活、行事を充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業は年20回行い、さらに学習、部活、行事を充実させていく。
<ul style="list-style-type: none"> 充実した学校図書館教育 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦図書紹介、図書館だより、SDGsに関する選書などに取り組んだ。計画的・継続的な読書活動をすすめた。 図書委員会を活用した絵本読み聞かせやブックサンタ等の取組を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的・継続的な読書活動をすすめる。 学校図書館専門員を積極的に活用し、読書活動を向上させる。

②進路指導

目 標	教育活動への取組と自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と学年が連携し、年間を通し学年ごと適時様々な説明会を開き、キャリア教育の充実を図ることができた。 キャリア教育を通し、生き方、在り方等を考えさせた。 外部人材を、自習支援、帰国生の補習、図書館居残り学習等で活用し、個々の生徒に応じた指導を実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を通し、生徒に生き方、在り方等を考えさせ、人としての成長につなげる。 外部人材を効果的に活用し、自学自習のモチベーションを向上させる。
<ul style="list-style-type: none"> 組織的な進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が進路データを一元管理し、進路指導部と学年・各教科が連携した指導を行うことができた。 生徒の希望進路実現のため、ケース会議、模擬試験分析会、進路行事等の充実を図り、教職員全体で進路指導情報を共有した。 「3年間の進路指導の流れ」や「3年間面談例」を踏まえ、面接指導（二者及び三者）の充実を図った。 PTAとも協力し、保護者対象の進路学習会の充実を図った。 教科会・教科主任会の活性化を図り、教科での共通テスト分析や模試分析を行い、学力向上を補完し、進学対策を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議、模擬試験分析会、進路行事等を通し、進路情報を共有し、全教員で生徒の進路支援の充実をさらに進める。 学年、進路指導部を中心とした三者面談を年1回実施し、保護者とも情報を共有する。

<ul style="list-style-type: none"> ・進路自己決定支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導推進校として、高い目標をもたせ、最後まであきらめさせない進路指導を行った。進路通信「挑戦者たちへ」を発行し、学年集会、保護者会、学校説明会、さくら連絡網等を活用して、情報を提供し、国公立大、難関私立大等を目指させた。 ・模擬試験の振り返りを学年集会等で行い、課題を全員で共有させ、進学に必要な力を身に付けさせた。 ・自主的な学習教材として、Classiの活用を推奨し、希望大学進学実現への手立てとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の効果を高めるため、①模擬試験を行う意義について、丁寧に生徒に説明すること。②振り返りを学年集会等で行い、進学に必要な力を身に付けさせる。この2点を強化していく。
---	--	--

③生活指導

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する、時間を守る、制服を正しく着用する等の基本的な生活習慣の指導を行った。遅刻の減少に向けて、生活指導部を中心とした指導を行った。 ・部活動などを通して「地域に愛される」取組を行い、地域や社会に貢献する意識を育んだ。 ・下校時間を守らせ、勉強・部活・学校行事の切り替えを日常的に指導した。 ・登下校の交通マナー、盗難防止の指導を行った。 ・SNS日野台ルールの徹底に取り組んだ。スマホをオンライン学習、健康観察等に有効活用するよう指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数は減少しておらず、生活指導部を中心に取組を検証する。 ・自転車への青切符導入にともない、ヘルメットの装着を含め、交通マナーの徹底に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会をとらえ、生命の尊重と自己肯定感を高めさせ、信頼できる人間関係をつくり、いじめや体罰の根絶に取り組んだ。学校生活や友人に関するアンケートを活用した。 ・総合的な探究の時間、人間と社会、様々な地域交流活動を通し、地域、社会と関わり、自己肯定感、キャリア意識を高めた。 ・セーフティ教室等を実施した。 ・ボランティア活動を推進し、部活動を中心に地域清掃等の取組を実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日野台生活スタンダード」で提唱する「思いやり」の心を育む。 ・総合的な探究の時間、人間と社会、様々な地域交流活動を通し、地域や社会と関わり、自己肯定感、キャリア意識を高める。
<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を充実させ、生徒にゴミの分別を日常的に取り組ませ、教室内や廊下などの美化に日常的に取り組んだ。 ・感染症対策として、校内の換気に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症への対策は、流行の兆しを見極めながら対策を講じて、取り組む。

④広報活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な学校PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部を中心としながらも、全校体制で広報活動を展開した。 ・授業公開を年3回実施した。 ・学校案内・ポスターの充実を図り、分かりやすく丁寧な説明を行った。 ・海外帰国生徒対応を含めホームページを適切に管理し、最新の学校情報の発信に努め、適宜更新した。 ・可能な範囲で近隣中学校や進学塾での広報活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色を、入学希望の中学生とその保護者や、都民に知っていただくため、生徒やPTAを活用した学校説明会等を行う。 ・ホームページの内容を、随時更新し、充実させ、一層の情報発信を行う。

⑤特別活動・部活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・企画力や運営力を育成	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭や体育祭、常磐樹祭(文化祭)等の学校行事を充実させ、自主性・創造性・協調性を伸長させる支援を行った。 これまで本校で培ってきた伝統行事が引き継がれるよう、また新たな工夫をして取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症以前に本校で行ってきた伝統行事をさらに発展させるよう教職員が生徒を支援しながら取り組ませる。
・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 高い次元の文武両道を目指し、部活動加入を推奨した。 部活動においては、地域、近隣小中学校学、高校等との連携を積極的に図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部・文化部共に、上位大会への進出・参加を目指し、高い次元での文武両道の実現に向け、日常の活動を充実させる。
・安全指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動で、事故や怪我の防止・対応に取り組んだ。 新入生への安全指導の徹底を図った。 部活動など様々な場面で、安全・安心な学校づくりに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校及び部活動など様々な場面で、事故の未然防止に配慮し、安全・安心な学校づくりに取り組む。

⑥環境・健康・安全

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・心と身体の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の状況を共有し、適切な指導に取り組み、生徒理解のための研修に取り組んだ。 スクールカウンセラーと連携し、教育相談の充実に取り組んだ。保健部を中心に相談日時を調整した。 感染症への対応として、感染状況に応じた取組を行った。また、校内での感染症防止の啓発にも努めた。 不登校や発達障害等の特別支援教育について、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーと連携して支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報を研修会など様々な方法で共有し指導に役立てる。 都立学校発達障害教育等推進エリアネットワークを活用した情報共有を推進する。
・省エネ推進	<ul style="list-style-type: none"> 節電、節水、CO₂削減など、環境保全や省エネルギーに努めた。 省エネを意識した取り組みを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に省エネを意識した取り組みを行う。
・ライフ・ワーク・バランスを推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校における働き方改革推進プランに基づき、部活動指導員等を活用した。 学校閉庁日は、学校専用携帯電話等を活用した。 夏休の完全取得、年休の取得率向上を推進した。 男性の育児取得を推奨した。 	<ul style="list-style-type: none"> 休暇取得促進ウィーク、定時退庁ウィークを活用する。 本校が使用している「Classi」を継続的に有効に活用する。

⑦経営企画室

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・積極的な学校経営参画	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営支援センターとの連携を強化した。 予算の適正執行・適正管理に努めた。 一般需用費のセンター割合を高める取組をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算編成指針に基づき、在庫管理を徹底し、無駄を省き、真に必要な予算の編成・適正執行管理に努める。
・学習環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の情報収集・点検・対応を行った。 教室換気のための冷暖房管理に留意した。 学校用務専門員との連携を図り、環境整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日直業務、生徒への啓発を通して、冷暖房管理に留意する。 学校用務専門員との連携を図り、環境整備に努めいく。

⑧特色ある教育活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・新学習指導要領に 応じた教育課程の 実施	・本校グランドデザインやカリキュラム・ポリシーに基づき、学習指導要領を確実に実施し、大学入学共通テスト、難関私大等の受験科目等に対応した教育課程を実施した。 ・観点別評価について、教務部を中心に一定の基準を提示することができた。	・観点別評価への対応について、今後も教科内での共有、研究を進めていく。
・主権者教育や消費 者教育の充実	・公民科授業やHRで主権者教育、消費者教育の充実を図った。 ・東京都選挙管理委員会・日野市選挙管理委員会と連携し、選挙関連の講演会・体験学習を実施した。	・選挙管理委員会とも連携して取り組む。
・グローバル化の進 展に向けた海外学 校間交流の推進	・海外短期交流、海外学校間交流として、希望生徒を中心に夏季休業中、海外語学研修旅行（海外研修ツアー）を推進し、実施した。	・夏季休業中に交流等を目的として、ガイドラインに基づき、海外研修旅行を発展的に実施する。
・グローバル化の進 展に向けた英語教 育を推進	・GE-NET EE校として、英語力の向上に努め、4技能（聞く、話す、読む、書く）の伸長を図った。 ・JETを活用した放課後部活動の充実を図った。 ・英語外部検定を英語力向上、大学受験での活用につなげた。 ・日常の教育活動で海外帰国生の存在を活かす活動を行った。	・英語科を中心とした英語外部検定受験の啓発、英語教育研究推進校として英語力の向上に努める。
・海外帰国生受入校 として、グローバ ル化の進展に対応 した国際教育の充 実	・海外帰国生受入校として、現代の国語、言語文化、数学Ⅰ、数学Aの取り出し授業を実施した。 ・日本語指導、数学補習、自主学習支援などを始めとした学習支援や個別面談、SC面談など個に応じたメンタルケアを実施した。 ・海外帰国生交流会・海外帰国生保護者会等を通じて、帰国生同士の交流を深めるとともに、文化祭における出身地の紹介など、グローバル社会に向けての情報発信を行った。	・海外帰国生が全校で活躍する場をさらに設定していく必要がある。
・学校2020レガシー 教育の推進	・共生・共助社会の実現に必要な「ボランティアマインド」「豊かな国際感覚」の育成など、学校2020レガシー教育に取り組んだ。	・生徒の心を揺るがすような講師を招聘し、意識の醸成に取り組む。
・芸術・伝統文化教 育の推進	・芸術鑑賞教室を通じて、芸術性の高い作品を鑑賞し、感性を養い芸術への理解を深め、人間形成の一助とした。 ・文化祭や合唱祭を通して、芸術性や専門性を高めるよう指導した。	・日本の伝統文化を理解し、発信できる生徒の育成に取り組む。
・主体的・対話的で 深い学び（アクテ ィブラーニング） の推進	・各教科において学力の3要素をバランス良く確実に伸ばさせ、主体的・対話的な学びの実現に取り組んだ。 ・深い対話があり、考えさせる授業を行った。	・主体的・対話的な深い学びがあり、考えさせる授業の実践、授業内での一人1台端末活用を推進する。
・地域等と連携した 防災教育推進	・自治会、社会福祉協議会と連携し、避難所設営等共助の防災訓練に取り組んだ。 ・防災訓練と合わせ年計4回、火災・震災等を踏まえた避難訓練を行った。	・日野市や隣接する市立大坂上中学校等と連携し、防災訓練に取り組む。
・学校評価の一層の 活用	・学校評価をより学校経営に反映させ、地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりの推進に努めた。学校評価アンケートを学校経営に生かした。	・学校評価アンケートを学校経営に効果的に生かす。

・オンライン教育の充実	・一人1台端末を活用し、課題設定力、仮説を立てる力、論理的に説明する力、明確な結論を導き表現する力を育成した。 ・適宜ICTを活用し、オンデマンド、ライブ配信を行い、授業、行事、部活動など様々な場面で活用する方法を研究し、実践した。BYOD(Bring Your Own Device)、CYOD(Choose Your Own Device)の実践に取り組んだ。	・Teams、Classi、ロイロノート、等の活用を推進し、校内研修等を継続する。
・高等学校DX加速化推進事業への対応	・デジタル等の成長分野を支える人材育成のため、ICTを活用した探究的な学びを推進した。 ・予算の適正な執行により、計画を推進し、教育実践につなげた。	・購入した物品等の継続的な管理と教育課程の検証を継続する。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

重点目標	取り組みと自己評価	数値データ ※[]内は前年度
難関大学合格実績等	<p>大学入学共通テスト出願者300名以上、6教科8科目の受験者150名以上となるよう、生徒を励まし、最後まで諦めさせない指導を継続した。また、現役国公立大学合格100名以上(うち難関国公立大5名以上)、早慶上智理科大60名以上、GMARCH大300名以上の合格者数を目指した指導を行った。</p> <p>その結果、今年度は160名、51%の生徒が6教科8科目のフル型の共通テストにチャレンジし、国公立大学の合格者は70名を越えた。また、難関私立大学延合格者数は昨年より若干減少した。</p> <p>今後はこの結果を分析・検証し、入試結果報告会等で共有し、次年度の大学入試に向けての対策を講じていく。</p>	<p><u>進路実績</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト出願者数 311名(312名中) [304名] ・国公立大学合格者数(大学校含む) 70名 [68名] ・東京大学再チャレンジ合格者数 0名 [0名] ・難関国公立大学合格者数 1名 [4名] ・早慶上智理科大延合格者数 38名 [45名] ・GMARCH延合格者数 281名 [281名] ・日東駒専延合格者数 196名 [175名] ・成成明武現役合格者数 39名 [82名] ・進路決定率 89% [92%] ・就職者数→0名 地方の国公立大学への進学者が減少した。再チャレンジする生徒は、32名。昨年よりも増加した。
学校生活の充実度	<p>学校評価アンケート回収率を90%以上となるよう取り組み、全項目で肯定的回答が80%を越えるよう、分掌・学年・教科・部活動顧問が連携して学校生活の充実に取り組んだ。</p> <p>「高い次元での文武両道」の教育活動を推進した。</p>	<p><u>学校評価アンケート結果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率 88% [14%] ・学校生活は充実 93% [94%] ・教員は教材の工夫に努めている 83% [92% (授業改善に努めている)] ・授業で教員と、あるいは生徒間で対話が行われている 88% [84% (授業に満足)] ・入学してよかった 92% [94% (1年のみ)] <p>※数値は全学年平均</p>
家庭学習の時間	<p>1、2年生で、家庭学習2時間以上の生徒が50%以上となるよう、課題の提示、隙間時間の有効活用、居残り学習等を促した。</p>	<p><u>家庭学習 平日2時間以上</u></p> <p>(7月) (11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年 平日 52% → 31% 休日 66% → 44%

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年 平日 41% → 47% <li style="padding-left: 20px;">休日 59% → 56%
学校PR活動	<p>オープンスクール、学校説明会等を広報し、参加者数4000名以上（文化祭入場者数含む）、入学者選抜一次募集最終応募倍率1.5倍以上となるように努めた。</p> <p>ホームページを中心に効果的な学校PR活動を推進した。</p>	<p><u>学校広報</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾対象説明会 適宜参加 ・ 学校説明会 3回実施 ・ 学校見学会 随時実施 ・ 授業公開 各学期にて1回実施 延べ2414組 [1777組] ・ 文化祭参観者延べ4645名 [4450名] ・ 都立高校第1志望調査（中学校長会進路対策委員会） 1.33倍 [1.38倍] ・ 推薦募集応募倍率 1.84倍 [1.57倍] ・ 一次募集応募倍率 1.38倍 [1.10倍]